別紙 2

審査の結果の要旨

氏名　　山口　乃生子

本研究は、ネパールのハンセン病患者・回復者を親に持つ思春期青年の抑うつ傾向、自尊感情および健康関連 QOL（HRQOL）について検討した研究である。第一章では、HRQOL 尺度の一つである Kiddo-KINDL のネパール語版を作成し、10 代の青年 204 名を対象にして尺度の信頼性と妥当性を検討した。第二章では、ハンセン患者や回復者を親に持つ 10 代の青年 102 名を対象に抑うつ傾向、自尊感情および HRQOL を測定し、その結果を一般青年と比較した。これらについて下記の結果を得た。

1. ネパール語版 Kiddo-KINDL の総得点および下位項目得点のスコア分布は偏りが少なく、内的整合性や再現性は高かった。抑うつ症状のある学生の Kiddo-KINDL の平均得点は、抑うつ症状がない学生と比較すると、統計学的に有意に低い値を示した。これらの結果から、ネパール語版 Kiddo-KINDL は一定の信頼性と妥当性を有することが示された。
2. ハンセン病患者・回復者を親に持つ青年は、一般青年と比較して抑うつ傾向が高く、自尊感情と HRQOL は低いことが示された。HRQOL 尺度の下位項目のうち、患者・回復者を親に持つ青年の「友だち」および「学校生活」領域における平均得点は、一般青年よりも高い値を示した。
3. 両親がハンセン病患者・回復者である青年の HRQOL の平均得点は、片親が患者・回復者の場合よりも統計学的に有意に低いか、またはその傾向にあった。
4. ハンセン病患者・回復者を親に持つ青年の HRQOL に影響を与える因子として、抑うつ症状が高いこと、両親がハンセン病の既往を持つことの 2 つが有意に関連を示した。

以上、本論文はこれまで注目されることのなかったネパールのハンセン病患者・回復者を親に持つ青年の抑うつ傾向、自尊感情および HRQOL の特徴を示した。これによって、疾患を抱えていない患者・回復者の思春期の子どもに対しても精神的支援をする必要があることが示唆された。また、本研究はネパールの思春期青年の主観的な HRQOL の特徴を今後一層検討していく上でも発展性のある研究であることから、学位の授与に値するものと考えられる。